

全大学の約 6 割で A O 入試を実施！ 岡山大・青山学院大・甲南大など 18 大学で新規導入

旺文社 教育情報センター 平成 17 年 7 月

A O (アドミッション・オフィス) 入試は、学力面に偏らない総合的な人物評価を行う入試として急激に普及した。旺文社のアンケート結果によると、6 月中旬現在で、全四年制大学の約 6 割が A O 入試を実施することがわかった。平成 18 年度の新規導入校は、国公立大 8 校、私立大 10 校で、岡山大や大阪府大など国公立大における導入が相次いだ。また、私立大では実施時期がますます早期化する傾向にある。

◆国公立 44 大学・私立 372 大学で実施

旺文社が全国の四年制大学を対象に行ったアンケート結果によると、国公立大は宇都宮大・岡山大・大阪府大など 8 大学、私立大は青山学院大・京都女大・甲南大など 10 大学で、18 年度から新たに A O 入試を導入することが判明した (6 月中旬現在)。

このうち岡山大では、教育・法・理・薬・環境理工の 5 学部 (一部学科を含む) で、一般選抜の後期日程廃止と並行して A O 入試を導入。また同大学では、理学部を中心とした学部横断型の教育プログラム「マッチングプログラムコース」(定員 10 人) を新設するが、学生募集を A O 入試のみで行う。

一方、フェリス女学院大では「秋期特別入試」(模擬講義・小論文・グループ面接で選考を行う推薦入試) を導入する代わりに、A O 入試と一般推薦 (公募制) を廃止する。

A O 入試は、国公立大が参入した 12 年 (2000 年) 度以降で実施校が急増し (p. 3 のグラフ①を参照) 17 年度も実施大学が 16 年度 375 校 17 年度 398 校 (四年制大学合計。16 年度は文部科学省調査、17 年度は旺文社調査) と 23 大学増えた。そして 18 年度の実施校は、前述の新規実施も合わせると 416 大学 (国公立大 44 校、私立大 372 校) となり、全四年制大学 (701 校) の約 59% と、約 6 割の大学で A O 入試を行っている。私立大に限れば、実施校は全体 (546 校) の約 68% と、約 7 割にも達する。

●18 年度に A O 入試を新たに導入する大学 (6 月中旬現在の判明分)

①国公立大学 (計 8 大学 18 学部等)

北海道教育大 - 岩見沢分校、宇都宮大 - 工、島根大 - 総合理工、岡山大 - 法・教育・理・薬・環境理工、京都府大 - 文・福祉社会・人間環境、大阪府大 - 工、兵庫県大 - 経済・経営・環境人間・理・工 (看護は 17 年度に社会人対象で導入)、高知女大 - 生活科学

②私立大学 (計 10 大学 12 学部)

東京情報大 - 総合情報、青山学院大 - 国際政治経済、嘉悦大 - 経営経済、東京家政大 - 家政、清泉女学院大 - 人間、京都女大 - 現代社会、芦屋大 - 教育、甲南大 - 経済・理工、福岡国際大 - 国際コミュニケーション、南九州大 - 環境造園・健康栄養

◆ 慶大・関西学院大で日程繰り上げ

すでにAO入試を行っている大学でも、国公立大は神戸大 - 海事科学、広島大 - 医、九大 - 芸術工の3大学(3学部)、私立大は慶大 - 法、明治大 - 情報コミュニケーション、同志社大 - 文化情報、関西学院大 - 経済、西南学院大 - 文など19大学(22学部)で、実施学部を増やした。この他にも、募集人員や実施日程、選考方法など、18年度も盛んに変更が行われている。以下、おもな変更点と新しい傾向を紹介する。

募集枠 広島大では実施学部・学科等を大幅に増やし、募集人員が一挙に「97人 268人」に拡大。この他、旭川医大(16人 30人)、筑波大 - 第三学群<工学システム>(10人 20人)、群馬県女大 - 国際コミュニケーション(5人 10人)など、国公立大で募集枠拡大が目立つ。一方、私立大では、早大 - 理工が「9 6学科」、同志社大 - 工が「9 4学科」に実施学科を削減。この他、日本大 - 生産工(72人 59人)、武蔵工大 - 工(21人 15人)、関西学院大 - 理工(35人 15人)で募集人員を減らすなど、難関・上位校の理工系学部でAO募集枠を縮小する傾向が見られた。

試験日程 実施時期は年々早まる傾向にあるが、18年度は難関・上位校での早期化が目立つ。慶大 - 総合政策・環境情報では、4月入学者の2回の募集とも、試験日を前年に比べ1ヶ月近く繰り上げた(例: 期を「10/23・24 10/1・2」、期を「12/11 11/12・13」に変更)。また、武蔵工大 - 工では約3週間、関西学院大では法・商が約3週間、総合政策が約2週間、理工に至っては2ヶ月も試験日を繰り上げた。

出願資格 旭川医大で「現役のみ 1浪まで可」に、大妻女大で「現役のみ 浪人可」に緩和し、同志社女大では「1浪まで」の制限を除外するなど、卒業年度の制限は緩和される方向にある。一方、大阪工大 - 工・情報科学で「評定平均値3.3以上」を新たに設定するなど、一部に成績基準を厳しくする動きが見られた。

選考方法 AO入試は、受験生の入学意欲や個性、アピール能力などが重視される。「エントリー(申込)→面談→内定・正式出願→合格」というパターンが多数派だが、国公立大や私立大難関校では「出願 選考(複数回) 合格」というパターンも多い。最近では、①模擬講義を受けレポート提出、②プレゼンテーション(提出レポート・作品等を、面接者に対して発表)、③グループ討論、といった方法を選考に採り入れる大学が増えている。新規実施大学・学部では、青山学院大 - 国際政治経済が、慶大 - 法が、のいずれも行う。この他、亜細亜大 - 法・国際関係、東京経大 - 経営、京都女大 - 現代社会が、中京大 - 情報理工・生命システム工が、甲南大 - 経済が、を実施する。

●18年度にAO入試実施学部を増やす大学(6月中旬現在の判明分)

①国公立大学(計3大学3学部) 神戸大 - 海事科学、広島大 - 医、九大 - 芸術工

②私立大学(計20大学24学部)

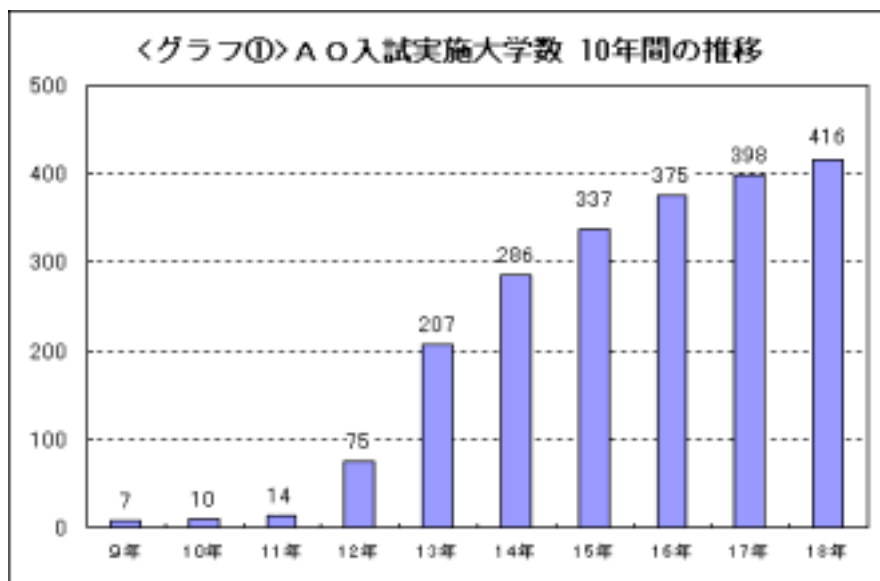
淑徳大 - 総合福祉、城西国際大 - 観光*、亜細亜大 - 法・国際関係、慶大 - 法、工学院大 - 情報*・グローバルエンジニアリング*、成城大 - 社会イノベーション、玉川大 - 教育・農、東京経大 - 経営、明治大 - 情報コミュニケーション、早大 - スポーツ科学、中京大 - 情報理工*・生命システム工、中部大 - 応用生物、同志社大 - 文化情報、追手門学院大 - 社会*、大阪成蹊大 - 芸術、関西学院大 - 経済、神戸親和女大 - 発達教育、安田女大 - 現代ビジネス、西南学院大 - 文、福岡大 - 商

<注>*は18年新設・改組予定の学部

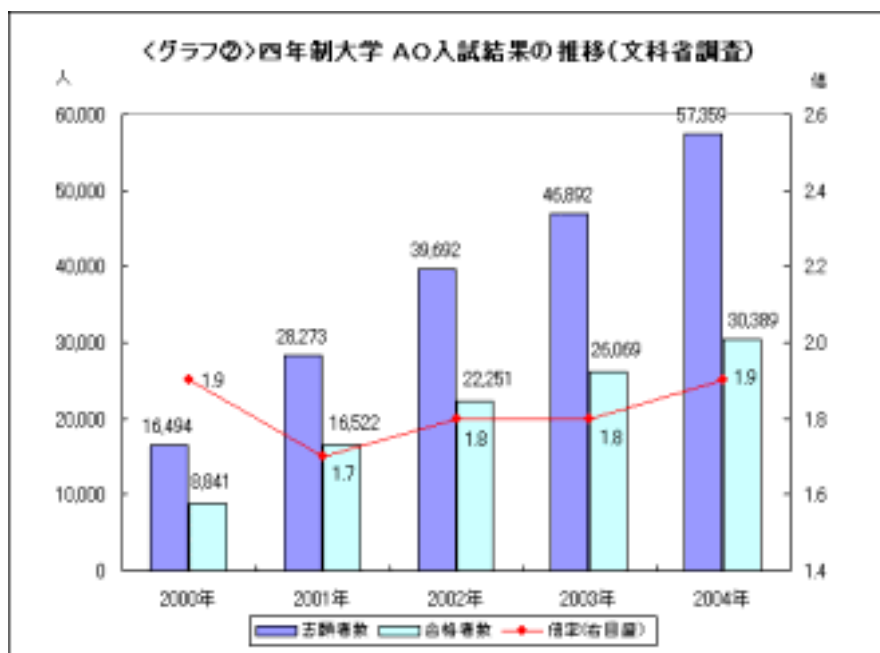
◆倍率は国公立大 4 倍超、私立大 2 倍弱!?

AO入試の競争率はどの程度になるのだろうか。17年度の結果をみると、志願者数(旺文社集計:16年12月現在)は全体で前年比11%増加したが、合格者数も8%増加し、倍率(志願者数÷合格者数)は2.2倍で前年度とほぼ同じだった。また、文科省の調査では、四年制大学全体のAO入試の倍率は、16年度までの5年間で「1.9倍 1.7倍 1.8倍 1.8倍 1.9倍」と安定している(グラフ②を参照)。このうち、国公立大は「4.0倍~4.3倍」、私立大は「1.6倍~1.8倍」の間を推移し、18年度もほぼ同程度の倍率となる。

ただし、医療・看護・薬や法律、福祉といった人気系統では高倍率になるケースが多い。例えば17年度は、岩手県大 - 社会福祉 8.4倍、明海大 - 歯 8.9倍、慶大 - 看護医療 28.7倍、明治学院大 - 心理 9.7倍、金沢医大 15.5倍、大阪薬大 8.4倍、関西大 - 法 7.1倍など。こうした学部・学科では、18年度も激戦は必至だ。



(注)16年以前は文部科学省調査、17年以降は旺文社調査による。



(注)倍率は志願者数÷合格者数

◆AO入試はここに注意！

早く合格が決まり、しかも面接（面談）のみで受験できる大学が多いこともあり、「AO人気」は年々アップしている。

しかし、AO入試は原則として専願制（他大学との併願不可）であるうえ、人物評価に重きを置かれたり、選考が長期間にわたったりするため、最終的に不合格になった場合、精神的なダメージが大きく、他の入試の準備が間に合わない危険性がある。あまりAOだけに入れ込まず、推薦入試や一般入試についても、並行してしっかり準備しておこう。

また、合格した時期が早すぎ、入学までに受験した時の意欲や学力、能力を失ってしまうケースもあるという。そうしたことのないよう、担当教員が電子メールで個別指導したり、課題レポートを添削指導したり、資格取得の講座を開いたりする「入学前準備教育」が充実した、面倒見のいい大学を選ぼう。